

事務事業評価表 平成25年度

政策 安全で快適な都市生活の充実
 施策 危機管理の強化・充実
 基本事業 危機管理機能の強化

事業名 **災害対応物品整備事業**

[1015]

部名	総務部	事業開始年度	平成24年度	実施計画事業認定	非対象
課名	総務課参事(危機対策 防災担当)	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>災害時想定避難者</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>江別市における災害時の被害想定に基づく避難者が避難生活を送れるようにする。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>災害時の被害想定に基づき、必要な物品について種類・数量を確定し、購入計画を立て、配備していく。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	災害時想定避難者数	人			10,000	10,000
対象指標2						
活動指標1	備蓄物品購入数(毛布)	枚			1,000	1,000
活動指標2	備蓄物品購入数(食糧)	個			2,000	2,000
成果指標1	計画に対する充足率(毛布)	%			41	51
成果指標2	計画に対する充足率(食糧)	%			43.6	58.6
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	0	0	12,185	11,751
正職員人件費(B)		千円	0	0	4,810	4,834
総事業費(A)+ (B)		千円	0	0	16,995	16,585

費用内訳	
24年度	需用費 5,587千円、委託料 100千円、工事請負費 294千円、原材料費 496千円、備品購入費 5,708千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	平成23年3月に発生した東日本大震災により当市でも災害時の備蓄物品について見直しを行った結果、種類・数量が増加し、予算的にひとつの事業として考える必要が生じたため	事業を取り巻く環境変化	東日本大震災をきっかけとした備蓄物品の見直し H23末備蓄：毛布3,100枚・食糧2,860食 食料は500食/年を訓練等で使用(新規購入2,000食/年-使用500食/年=純増1,500食/年)
--------	---	-------------	--

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由・
根拠は？

東日本大震災発生後、避難所運営等に係る毛布や食糧・資機材等、必要な物品整備を行う事業であり、必要な事業である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由・
根拠は？

安全・安心な生活を送る為に必須と言える事業であり、市民の注目や貢献度も高い。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由・
根拠は？

市債等を活用し長期的計画的な物品整備を進めている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

災害時に備えた「セーフティネット」としての事業であり、年度によりその効果が大きく変わる事は考えにくい。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
ない

理由・
根拠は？

初動時の対応として必要な物品整備を行うものであり、コスト削減は難しい。